

旭川市福祉のまちづくりに関する懇話会 会議録（令和3年度第1回）

日時	令和3年4月21日（水） 18:25～19:30
場所	旭川市民文化会館 第2会議室
出席者	鬼塚 晃任, 鎌本 かおり, 川口 勤, 神田 典行, 菊池 亮汰, 齋藤 建児, 佐々木 和雄, 高森 崇, 玉田 昌嗣, 林 欽一, 飛驒 晶子, 廣岡 輝恵, 廣長 賢治, 堀川 沙織, 吉政 文代 (敬称略) 福祉保険部次長 小島 浩吉志 福祉保険部福祉保険課主幹 古川 雄輔 福祉保険部福祉保険課地域福祉係主査 柴田 淳
会議の公開・非公開	公開
傍聴者	なし
会議資料	資料1 (仮称)福祉のまちづくり条例骨子(案)令和2年度第2回懇話会発言等対応内容 資料2 (仮称)福祉のまちづくり条例骨子(案)新旧対照表 資料3 地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の重層的な支援体制の構築の支援(令和2年度 地域共生社会の実現に向けた市町村における包括的な支援体制の整備に関する全国担当者会議資料 抜粋)

1 開会

- ・人事異動による事務局体制の変更について報告

2 議題

- (1) (仮称)福祉のまちづくり条例骨子(案)について
(事務局)

福祉保険課主幹から資料1～2に基づき説明。

(参加者)

- ・修正案については意見質問がないことから, 次の議題へ進む。

- (2) 重層的支援体制整備事業について
(事務局)

福祉保険課主幹から資料3に基づき説明。

(参加者)

- ・地域には、高齢者や障がい者、生活困窮者等、様々な方が生活しており、地域福祉の活動者も、町内会や市民委員会、地区社会福祉協議会等の関係機関がいて、住民の安心と安全、幸せを目指すため、連携とそれぞれが社会的使命と情熱を持って役割を果たす必要がある。
- ・絆が失われ、社会との接点のない市民が増えているので、アウトリーチにより積極的に対象者への接触を試みる必要性が高くなっている。
- ・地域包括支援センターや地域コーディネーター等の支援機関が点となり、それぞれの人や資源を結び線となるよう、住民と顔の見える関係で地域づくりを行っている。

(事務局)

- ・点が線になり、面にもなるようなつながりの実現を目指して、重層的支援体制を構築していきたい。

(参加者)

- ・既存のものを活用することは良いと感じる。体制が整ってからつながるのは難しいが、活用できる資源マップを描き、誰がどのようにつながり、ネットワークをつなぐ機能はどこが果たすのか、という図式を関係機関で共有しながら重層的支援体制を構築していくと、動き出しがスムーズだと思われる。
- ・実施に当たり、個人情報の取扱いが課題だと感じる。お互いの情報を一元化できるような整理をお願いしていきたい。
- ・人手不足が課題。重層的支援体制が構築されると、既存の相談支援はより厳しくなると思われる。マンパワーに対する継続的支援や、育成も含めて計画の中に盛り込んで市がバックアップを行ってほしい。

(事務局)

- ・資源の整理や支援がつながるイメージについては、次回以降、市としてどのように重層的支援体制を構築していくのかという資料の中で見せていきたい。
- ・情報の取扱いは、個人情報保護条例というハードルがあるが、この重層的支援体制整備事業の中では情報のやり取りが一部可能になる。全ての解決にはならないが、一定程度の改善が図られる部分があると考えている。
- ・人材不足はその通りだと思われる。市がどのように育成を支援していくか、今現在、明確な答えを持たないが、大きな検討課題の一つと言える。

(参加者)

- ・福祉課題の根源に、社会構造や経済的な問題がある。次回以降、旭川市版の『重層的支援体制整備』の案が出てくると思うが、背景にある地域福祉計画や、総合計画との関連性なども明示してもらえると、旭川市として包括的にどのように進めていくのか理解ができ、市民に賛同を得られやすいと思われる。

(参加者)

- ・個人情報を守るため、誰かに伝えることは難しいが、仕事で地域の方と接すると、親の介護や子育てに関する悩みを耳にすることがあり心配を感じる家族もいる。どこに相談したら良いのか困りごとを相談できる場所ができるのはいい。
- ・既存のものを活かすということであれば、地域の中で働く配達業等は、地域の情報を知っているので活用できる資源だと感じる。

(事務局)

- ・様々な機関とのつながりや連携を、どのようにできるか検討していきたい。

(参加者)

- ・重層的相談支援会議や多機関協働事業を実施するに当たり、従来のを活かすということであれば、調整役を配置する方向と思われるが、手腕に係る部分が大きいと感じる。
- ・属性を越えてクロスした支援を行うことは、一般的な取組として広がっておらず、その配置や選任は難しく感じられる。体制づくりについても議論できたら良い。

(事務局)

- ・資料に、重層的相談支援会議や多機関協働事業の説明があり、調整役というイメージが記されている。市でも同様に多機関との調整を担う役割が必要だと思っている。
- ・調整役は個人の可能性もあるが、組織的な機能をもって進めることが必要だと思っており、具体的なことは次回以降とさせていただきたい。

(参加者)

- ・いろいろな話を聞き、地域の大切さや住民の活動に気がつく。
- ・町内会や市民委員会、子どもを守る会等、地域で連携することや、時には新たな組織を作り、包括的、重層的に地域を考えていくことが必要なのだと感じた。
- ・地域に住んでいる方が、様々な目的や意識を持って活動しているということを知るために、子どもたちが地域と関わる多くの時間が必要だと感じた。そのことが、将来の地域を担う人材の育成になってくると思われる。

(参加者)

- ・人口構造の変化によって、地域の脆弱化が著しい地域では、町内会や民生委員といった地域活動を担う役割が重複してしまい、支援をしたいけれど負担が大きくなることを恐れて、二の足を踏んでしまうというジレンマが存在する。
- ・他の地区には、担い手の育成も含めて地域づくりの成功例もあり、地域の限界を超えたところに新しい解決策があるとも言える。子どもたちの育成も含めて、旭川市が全国に先駆けて、モデルのような地域を作るといっても将来につながる可能性があると感じた。

(事務局)

- 地域の大切さはその通りだと思っている。
- 重層的支援体制の構築に当たり、『相談支援』『参加支援』『地域づくりに向けた支援』があり、地域で実施している取組への参加をあわせてやっていくという全体の形になっている。旭川市に照らし合わせると、どのようになっていくのかを検討して進めていきたい。

(参加者)

- 各地域で福祉に関する活動は実施しているが、人材の確保やつなぎ役の不足、参加者の固定化や減少、場所や資金の確保などの悩みを抱えて活動している。
- 生活への困りごとを抱えている人と、地域とをつなぐ世話焼きが地域にはいない。相談を聞いて関係機関につなぐ役が必要。
- 市民委員会や地区社会福祉協議会では、ふれあいサロンや安心見守り活動を行っており、週に1～2回訪問している担い手がいる。解決できない悩みや課題は、地域のコーディネーターが、地域包括支援センターや旭川市社会福祉協議会に相談していくが、そのコーディネーターが育たない。
- 人材の確保が課題であり、市の役割として旭川市社会福祉協議会と車の両輪のように連携し、地域課題を解決して欲しい。地域は絆が薄れ、無縁社会になっている。

3 その他

(事務局)

- 福祉保険課主幹から次回の日程調整について連絡した。

4 閉会